

産地戦略	実施主体	旭正有機機械利用組合
	都道府県	北海道
	対象地域	旭川市、鷹栖町
	対象品目	水稲
実施期間 令和6年度		
産地戦略実施期間 令和7年度～11年度		



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
● 有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

水稲有機JAS栽培において水田除草機及び自動操舵装置を導入し、化学農薬の使用量を低減し、化石燃料使用料低減などの環境負荷低減を図るとともに、物理的防除により雑草防除の省力化を実践することを目指す。
--

グリーンな栽培体系 栽培マニュアルに記載の通り

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	65.2 ▶	65.2	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	20.3 ▶	30.0	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学肥料・農薬の散布	▶ 有機栽培による、化学肥料・化学農薬を不使用	除草機を活用した雑草防除を行い有機栽培面積の拡大を図る
省力	通常運転	▶ 自動操舵装置を活用し、作業効率化を図る	作業効率化が図られ作業時間を削減、化石燃料使用量の低減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	有機栽培による化学肥料・化学農薬の使用量低減率	100 ▶	0	▲100%削減
環境	自動操舵装置を活用し化石燃料の使用量低減率	100 ▶	▲10%	▲10%削減

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

令和6年より、旭正有機機械利用組合が中心となり、策定した産地戦略と栽培マニュアルをもとにグリーンな栽培体系を生産者や生産法人に周知する。生産者・生産法人は、関係機関の支援の下、有機栽培が可能な生産者から有機栽培を実践する。令和8年から令和11年度は、より広域的な地域で有機栽培を行い、グリーンな栽培体系の普及を図る。
--

関係者の役割

関係者名	北海道（上川農業改良普及センター）	JAあさひかわ営農企画部米穀農産課	生産者・生産法人（当組合を含む管内農業者）	
役割	・有機栽培の栽培指導 ・土壌分析・施肥設計支援 ・グリーンな栽培体系周知	・作業日誌による耕種概要の確認 ・有機栽培研修会の開催 ・グリーンな栽培体系周知	・可能な生産者から有機栽培の実践	

